

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: HKU-Todai Joint Summer Program 2013

派遣先大学: 香港大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 5.民間企業(業界:政府系金融)

派遣先大学の概要

香港大学: アジア最高峰の大学で、キャンパスも新しく生徒の質も非常に高い。

参加した動機

香港という欧米文化と中華文化が融合した世界観を体感したかったのだ。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
エッセイのみ。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
特にありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
特にありませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
オンラインで一番安いものを契約しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
書類の提出のみ。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
以前留学していたので、英語に不自由する事はありませんでした。耳慣らしに英語の教材を聞くようには心がけていました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
シャンプーとリンスを持って行けば良かったです。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
前半が講義やフィールドワーク。後半が班に分かれてのリサーチで、最終日にプレゼンを行いました。テーマからアポイントメントまで全て自分たちの責任で行う事は非常に多編でしたが、やりがいがあり楽しかったです。毎日睡眠時間を削りながらチームのメンバーとディスカッションしたのも今では良い思い出です。

②学習・研究面でのアドバイス
リサーチテーマはアポイントを取れる企業によって大分変わってしまうので、企業のアポイントメントは私達の代を参考に、早めに取り事をお勧めします。またアポイントが取れない場合も想定して、いくつかテーマを考えておくとうれしいでしょう。

③語学面での苦労・アドバイス等
移動などで広東語を使わなければならない場面がいくつかあったのですが、香港大学の学生のおかげで殆ど苦労はありませんでした、本当に助かりました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
香港大学の寮: 綺麗な寮に泊まらせて頂いたのだ、非常に暮らし易かったです。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気候はとて暑かったです。寮の周辺にレストランやスーパーもあったのだ、特に困った事はありませんでした。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安はあまり悪くはないとは思いますが、日本にいる時よりは常に荷物の管理に気を使っていました。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
宿泊費 15,000 円程+

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
なし

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
アテンドして下さった香港大学の学生に香港を案内してもらいました。非常に楽しく、香港大学の学生達と交流出来た事が一番の成果だったように思います。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
とても良かったです。住居もよく、香港大学の学生たちも密にサポートをしてくれて殆ど不自由ありませんでした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
新しく、

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

自身としては初の中華圏だったので、非常に刺激的な日々を過ごせました。香港は英語が通じると思ったが、予想以上にタクシーの運転手やレストランの店員には通じない事が多く苦労しました。そしてそれと同時に、その香港以上に英語が通じない日本はいかに外国人が住みにくいかわか想像出来て、日本がグローバル化を図るのであれば最低限語学の底上げは必要だと感じました。

②参加後の予定
より中華圏の文化と言語を理解するため、上海にある復旦大学に私費留学中。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
香港という場所に興味のある学生、また海外にあまり出た事がない学生にお勧めです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 経済学部 3年

参加プログラム: HKU-Todai joint summer program 派遣先大学: 香港大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 5.民間企業

派遣先大学の概要

香港大学。香港の中では、香港中文大学と一二を争う名門大学。アジアの中でもトップレベルの大学。校舎設備も最新鋭で、香港らしく大富豪の寄付によってビルディングが建設されていることが多い。香港らしくビジネスなどが有名だが、医学部も有名。

参加した動機

もともと、家族旅行で頻りに香港を訪れており、香港という土地に親しみと愛着があったから。安い旅費で2週間も香港に滞在できるのだからお得だという下心も正直あったが、いざ参加してみるとその内容、一緒に参加する人も非常にレベルが高く、勉強になることも多かった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

提出期限を守ること。このプログラムの提出物はたまたま試験と重なっていたこともあり書類作成がいつもギリギリでミスも多かったです。このようなことはやめましょう。あと、不明点があったらすぐに窓口へ。真摯に対応していただけます。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
ビザ不要。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
とくになし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
とくになし。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
担当教官のサインが必要。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
TOEFLは80点後半は持っていました。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
香港はとても進んでいる地域なので、たいていの物は売っています。なんとかなると思います。ただ、薬関係はやはり自分に合ったものがあると思うので、持参するといいです。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

前半は、香港大学の教授の方々からのレクチャーと、証券取引所や工場などの見学。日本ですらこのような経験を得ることが難しいのに海外でこのような経験をすることができたのは新鮮でした。後半は、グループに分かれて企業にヒアリングを実施し、最終日にプレゼンを実施する。香港駐在大使も来てくださり、大きなプレゼン会場でした。

②学習・研究面でのアドバイス

思ったより夜遅くまでの作業を強いられるので、体調を整えましょう。せっかく香港に来たのだからという思いで夕食など街に繰り出して観光してから戻ってきてプレゼン準備があったりするので、楽しく気合で乗り切るのがよいかと。

③語学面での苦労・アドバイス等

特になし。お互い英語がセカンドランゲージであってゆっくり話し合うので問題なし。また、このようなプログラムに参加してくれる現地学生は日本に興味を持っていてくれることが多く、日本語を話せることも多い。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

学生寮。今年完成したばかりの新しい寮で清潔でよかったです。2週間でHK \$980ほど。ただ、コンビニ等が少し遠いのが難。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は亜熱帯。スコールもあるので傘必須。数分歩けばバスやトラムに乗れる。タクシーがどこでも捕まるし安いので重宝していました。カードは概ねどこでも使える。ATMも街中にある。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
まったく心配なし。夜の女性の一人歩きだけ避けた方がよいかと。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空運賃往復6万。その他の生活費は日本と同水準。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東京大学より7万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
現地スタッフにほぼ毎日食事と観光に連れて行ってもらいました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

図書館は入場可にいただいた。また、香港大の先生にいつでもメール等で質問ができる体制が整っており、いろいろなことをお願いしやすい状況だった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は東大より立派に感じた。食堂は香港のファミレスチェーンで、そこでも香港の味を体験できる。

Wi-fiは大学中完備。とても快適でした。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

このプログラムでは、実際に外国ではどのようなビジネスが行われているのかを肌で感じる事ができたことが私の中で大きかった。それはただ観光に行くだけでは得られないものだろう。

成長したこととしては英語を用いて公式な場で発表をした経験を積めたことが大きい。英語しかコミュニケーションの手段がない中での発表はとても難しかったが、エキサイティングであった。

そしてなにより私の中で大きかったのは、香港大学と東大生に素敵な友人がたくさんできたことである。それだけでもこのプログラムに参加した価値があったと思う。

②参加後の予定

機会があれば交換留学等でまた香港を訪れたいと思うようになった。長期の留学というもののビジョンを描けるようになった。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

もし、ほんの少しでも興味があるのなら、応募してみるといいと思います。後悔のないように選択をしてくださいね！

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 公共政策大学院 1年

参加プログラム: HKU-Todai Joint Summer Program 派遣先大学: Hong Kong University

卒業・修了後の就職(希望)先: 3.公務員

派遣先大学の概要

香港大学(HKU)は香港島の北西部にあり、アジアだけでなく世界でもトップクラスの大学です。日本語を勉強している学生も多くいて、日本の大学にも交換留学の協定を結んでいるところがいくつもあります。

参加した動機

私がこのプログラムに応募した最大の理由は、日系企業の海外展開に関心があったということです。日系企業が海外展開する上でどのような工夫をしているのか、どのような困難に直面しているのか、それに対して日本の公的機関がどのような役割を果たしているのかなどについて知りたいと考え、応募しました。また、このプログラムは JASSO の奨学金給付の対象であることや、日本から近いため航空券代が安いことといった経済的な面でも、このプログラムに魅力を感じました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

私は他大学出身で学部時代の成績証明書の発行に数日かかってしまったので、余裕を持って準備しておくべきだったと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本国籍なので、ビザは必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に何も準備はしていません。東大の学生も HKU のクリニックを利用できます。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学生協のサイトから、損保ジャパンの新・海外旅行保険【off!】に加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

応募書類は所属科の事務室に提出しました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

時間がなかったので、何か特別に準備したことはありません。英語の授業を履修していたので、それが練習になっていたかと思います。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

名刺があるといいと思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

参加学生全体では、HKUで著名な教授の講義を受けたり、ビジネスマンのお話を伺ったりしました。そのほか、香港で成功している高級日系スーパーや日系企業の工場、香港の日本人商工会、証券取引所や金融管理局、香港貿易発展局などを訪問、見学しました。

後半の三日間で班ごとのフィールドワークを行い、最終日の夜にプログラム中にお世話になった企業の方々や東大の卒業生の方々の前で、最終プレゼンテーションをしました。

②学習・研究面でのアドバイス

事前に予習や情報収集をしっかりとっておいたほうが良いと思います。実際に行かないと分からないことも多いですが、予定がかなり詰まっているので、あまり時間的な余裕はなかったと思います。

③語学面での苦勞・アドバイス等

授業や企業でのお話は、時々聞き取りにくいこともありました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

参加者は皆 HKU の新しい寮 Residential College に宿泊しました。費用は一日あたり 80HKD です。当初は2人部屋

と聞いていましたが、多くの人は1人部屋に泊まることになりました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
建物の内外で温度差が激しいと思います。

HKUは広く寮からシャトルバスでキャンパスに向かいましたが、基本的に時間通りには来ません。

寮のある Kennedy Town には地下鉄が走っていないので、バスを頻繁に使いました。近くにスーパーやコンビニ、パン屋、レストランなどは色々ありましたが、両替所はないようです。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

寮の近くであれば、夜でもそれほど治安は悪くないと思います。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

全部で12万円ほどかかったと思います。航空賃:6万円、保険料:5千円、授業料・教科書代:なし、宿泊費:1.3万円、交通費:5千円、その他:3万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

日本学生支援機構(JASSO)から7万円の奨学金を受給します。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

HKUの学生が授業後や日曜日に、レストランや観光地に連れて行ってくれましたが、基本的にはプログラムのスケジュールが詰まっていて、時間がありませんでした。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

HKUから参加している学生がありとあらゆる点でサポートしてくれました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

大学のキャンパスや寮では free wifi が使えますが、すぐに切れてしまう気がしました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プログラムを運営された園田先生や中野先生のご尽力により、HKUの著名な教授の授業を受け、ビジネスの第一線で活躍されている方々のお話を伺うことができ、非常に貴重な経験をさせていただきました。これまで香港に行ったこともアジアにおける香港の役割について深く考えることもなかったため、新しい知識を得ることができました。以前は、上海やシンガポールといった都市の発展により香港は重要性を失いつつあると思っていましたが、東南アジアに進出するうえでハブ、あるいは中国に投資する際のステップといった面で、香港は今後も重要な役割を果たさうということを知ることができました。

また、日本製品のローカライゼーションに興味があったため、食品・飲料がいかにして香港市場に入り込み、または入り込もうとしているのかを知ることができよかったです。最初の参加者の説明会からプログラム開始までの間に班ごとに事前調査を進め、具体的なテーマを決めて企業にインタビューのアポをとらなければならず、全ての企業から良い返事を頂けたわけではなかったため、参加前はかなり不安がありました。しかし、突然の依頼にも関わらずインタビューに協力してくださった企業もあり、プレゼンを乗り切ることもできたため、充実した2週間であったと思います。

②参加後の予定

直接ビジネスに関連することを勉強しているわけではありませんが、このプログラムで得られたことを大学院での勉強に活かしていきたいと思っています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

事前に班で話し合いや企業へのアポとりをしなければならず、学期末のテストやレポート提出などと時期が重なり大変でした。また、プログラム中も短期間にたくさんのことを詰め込んでおり、班ごとの最終プレゼンのための準備期間も短いので、楽なプログラムではないと思います。しかし、それ以上の収穫があり有意義な期間を過ごせるプログラムでした。パイロットプログラムでかなり大きな期待をかけられていたので当初は乗り切れるのか不安でしたが、班のメンバーやその他の参加者、HKUの学生などの協力によってプログラムを修了することができたので、参加してよかったと思っています。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。